

# みんなで語る会報告書

対象団体	指宿校区自治公民館連絡協議会
テーマ	みんなで語ろう私たちの地域 ①少子高齢化が進む集落について ②集落の防災活動や対策について ③住民の集落加入について
開催日時	平成23年10月14日(金) (19時00分～20時30分)
開催場所	指宿校区公民館
参加者数	地区住民…17人 指宿市…16人

総計33名

## 会次第

全体進行・・・市長公室長

- 1 開会のあいさつ (水迫廣敏会長)
- 2 市長あいさつ
- 3 グループごとの協議 (進行・富永副市長)
- 4 各グループの発表, まとめ
- 5 閉会のあいさつ (外城市集落長)

## 内容等

### 1. 開会のあいさつ (水迫廣敏会長)

今回の大震災で感じたことに、「遠くの親戚より近くの他人」ということがある。非常時には、地域の大切さを改めて感じる。未加入者問題なども、今回の震災を教訓にできるのではないかと思う。

今回の事業を実施するために、数回会議を開催し、各地区から検討課題を提出してもらった。13項目提出していただき、その中の3つの項目についてグループに分かれて協議をするということになっている。今回の課題は、各地区の共通の課題となっている。その根源は、少子高齢化を初めとする社会現象の影響もあるが、対応し、工夫し、乗り越えていかないといけない。簡単に解決できる課題ではないが、ひとつの公民館だけでなく、校区で考えていく必要がある。また行政の方々の協力も必要だ。将来に向けての明るい展望が開ければいい。また、市民協働の思いを持って進めていきたい。

### 2. 市長あいさつ

「せっかく語る会として集まったなら、何かの形で意見を出そう。そして何をするか決めよう。行動に移そう」それが語る会だ。昨年摺ヶ浜地区の語る会の中で、海上ホテル横の荒地をどうにかして欲しいという問題が出た。そのとき、菜の花を植えようという話になった。関係者と調整したところ、荒地に菜の花を植えることに決まった。みなさんがそれぞれのグループで思いを出して頂いて、一つでも実現できればと思う。

### 3. グループごとの協議 (進行・富永副市長)

省略

### 4. 各グループの発表・まとめ

①少子高齢化が進む集落について②集落の防災活動や対策について③住民の集落加入についての3グループに分かれ、その中で各人が次の①②③について提案。それをグループ内で協議し、集約した後に、グループの代表者が発表)

①グループテーマで、「現状」「問題点」「課題」について

- ②グループテーマが、これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか
- ③そのために、自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

### 1班（少子高齢化が進む集落）

#### ①「現状」「問題点」「課題」について

- ・地区の清掃作業等難しくなっている
- ・子ども中心の行事ができない。運営に不安がある
- ・市の主導で合併できるのか。頼り切っているのはダメである
- ・自分たちの問題でもある。（方向性を示して欲しい）
- ・小学生7名、中学生6名、これから2～3年は小学校にあがる子どもはいない。若者が田舎の生活が苦しいと出て行く
- ・11戸はほとんど70歳以上
- ・合併したら、事務嘱託員の問題もある。移動も大変（車の手配は市で手助けできないか）
- ・協働でイベントをする工夫が必要である

#### ②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・企業を持ってくる
- ・団地、市営住宅を建てる
- ・空き家の活用

#### ③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<自分たちにできること>

<指宿市にしてほしいこと>

- ・区長制度の導入

#### **【意見発表】**

（区民）

・少子高齢化の問題は、全地区共通の問題。行政主体で解決できる問題ではない。協議の中で山川の区長の制度を聞いた。行政が関わらずに、区が主体となって活動している。区長会の間では、今後少子高齢化が進む中で、合併についても議論されているとのことだ。市に頼るのではなく、地区で解決できる問題は自分たちで解決しないといけない。少子高齢化の問題を解決するのは、非常に難しい問題。少子高齢化が進まない政策は不可能だと考えている。とにかく自分たちでできることは、自分たちですと言うのが筋だと思う。非常に難しい問題であった。

（健康福祉部長）

・協議の中で地区の合併については、行政主導ではなく、地区民の主導で進めなければならないと感じた。

### 2班（集落の防災活動や対策）

#### ①「現状」「問題点」「課題」について

- ・地区の広報活動は集落スピーカーが1ヶ所⇒風向きで聞こえないこともある
- ・よいものを付けると高価になる
- ・校区の避難場所が周知不足
- ・地区防災組織の地区民の認識不足
- ・防災無線が必要

#### ②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・防災マップ⇒地区の特徴（地形条件）に合ったものが欲しい（津波・土砂・川）
- ・携帯メール配信は、会社によらず全てで受け取れる
- ・災害時でも情報伝達が確実に出来るようにしてほしい
- ・無線装置の設置（防災行政無線）。山川・開聞地区にはあるが、指宿地区にはない。
- ・集落スピーカーが整備でき、全世帯に伝えられる
- ・放送（集落）にも課題があるので、防災に限定してほしい
- ・地区の防災訓練を実施したい

- ・防災意識を高めたい
- ・どこに寝たきりの住民がいるかがわかるようにしたい。高齢者支援体制を作りたい
- ・地区民の心得を高めてもらいたい

### ③自分たちにできることにできること、指宿市にしてほしいこと

<自分たちにできること>

- ・日常の地区パトロールの実施
- ・ガスの元栓を閉める（災害時）
- ・災害用の持ち出し品の準備
- ・定期的訓練（自主防災）の実施

<指宿市にしてほしいこと>

- ・防災無線を集落スピーカーに直結して欲しい
- ・地域別及び災害別ハザードマップを作成して欲しい
- ・地区内に無線を設置して欲しい

#### 【意見発表】

(区民)

- ・住民が防災意識を高め、その対策を前もって想定しておく必要がある。そして「今後どの程度の津波が来る可能性があるのか、開聞岳が噴火する可能性があるのか」などの情報も必要だ。
- ・防災無線について、どれくらい話が進んでいるのか。市がどのように考えているのか。

(総務部長)

- ・防災行政無線についてだが、現在 23 年度の事業では、ハザードマップの作成を考えている。地形の条件や自治防災組織を配慮したものとなる。
- ・防災行政無線については、指宿市全地区での一斉配信も考えていかないといけない。情報をきちんと伝達できるシステムがどのようなものがあるかを調査している。まずは指宿地域からの整備を考えている。また、小牧や五郎ヶ岡などには、エリアトークといって、館長の自宅から無線で伝える方法があるので、それであればスピーカーではなく個別の自宅でも聞けるような方法がとれる。情報伝達の方法について、どのようなものがあるかを調査している。
- ・また屋外ラップの付近の方々から「なかなか寝付けない。赤ちゃんが泣く」といった苦情が寄せられるので、屋外ラップの付ける場所については、協力が求められる。
- ・防災無線を補完する方法としての携帯メールの活用も考えられる。23 年度中に調査を行っている。

### 3班（住民の集落加入について）

#### ①「現状」「問題点」「課題」について

#### ②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

<宮之前>

- ・3件未加入  
⇒子ども会にも未加入（子どもの教育にも悪い）  
集落活動にも不参加・ゴミ出しも守らない  
火災などがあれば、地区として協力せざる得ない
- ・加入を強制できない
- ・県営、市営住宅の住居者が多い。入居条件に集落加入を付け加えては
- ・市の条例に集落加入を定めてほしい

<道下東>

- ・集落住民の40%が高齢。若い人が入らない
- ・加入を勧めても入らない。説得しても効果なし
- ・自分たちばかり負担して、不公平である
- ・9月から新規2件（小学生が2人）。しかし二月田に入る…柳田小学校
- ・来年もまた新規が1件あるが、やはり二月田に入りそうである

<中福良>

- ・市営住宅でも全世帯が加入⇒問題なし

#### <大園原>

- ・ 県営住宅 7 2 世帯中 8 世帯未加入，市営住宅 2 4 世帯中 7 世帯未加入である
- ・ 地域住民に不公平感がある
- ⇒ 市の使送便がすんなり届かないようにしては  
ペナルティを与えれば，加入するのではないか

#### <外城市>

- ・ どうしても 3 件加入しない。未加入者からは「今のままで問題ない」と言われる
- ・ 職場に相談しても×
- ・ しかし，集落の施設は利用する
- ⇒ 市の文書を有料にしては  
市 P 連から呼びかけはできないか  
個別指導はできないのか

### ③自分たちにできること，指宿市にしてほしいこと

#### <指宿市にしてほしいこと>

- ・ 公営住宅の入居条件にする
- ・ 未加入対策条例の制定
- ・ 転入時の指導
- ・ 個別郵送の有料化

#### <自分たちにできること>

- ・ 説得すること

### 【意見発表】

#### (区民)

- ・ 未加入者が多く，何回足を運んでも入ってくれない。その理由として「市からの文書も送ってくる。ゴミステーションも使える。入らなくても困らない」と言われる。強制はできない。
- ・ 未加入者の上司に相談して，上司から説得してもらった。しかし，「今年は入らない。来年になったら考える」といわれた。
- ・ 公営住宅の加入に条件を付けられないのかという提案もあった。
- ・ 自分たちには時間をかけての説得しかできない。
- ・ 入っている人と入っていない人との不公平感がある。未加入者は支払いをしていないのに，ゴミステーションを利用する。いつかは住民の不満は爆発する。
- ・ 公民館に未加入の方が，市全体でどれくらいいるのか。また使送便についてだが，未加入者には郵送すると聞いている。嘱託員には委託料を払っているのでこれは 2 重払いになるのではないか。未加入者が多いほど，市の経費がかかる。今の（不公平な）ままでは公民館を脱退する人が増えるのではないか。地区と行政が一体となって，未加入者の問題を解決するべきではないか。

#### (総務部長)

- ・ 地区の未加入者の数字だが，指宿市全体で約 14%だ。指宿 20%，山川 3%，開聞 3%という数字が出ている。個別で申し上げると指宿校区 12%，丹波校区 28%というような状況だ。

#### (市民生活部長)

- ・ 郵送の件だが，自公連と市民協働課で加入を促進するような呼びかけ，広報用の資料を作っている。今年には出来上がる予定。自治会公民館の活動内容などを知らせている。
- ・ また自治会への入会キャンペーンという形で，市役所内に特設のブースを作って，転入転出の多い 3～4 月に，指宿・山川・開聞地区で自公連の方と自治会加入の呼びかけを考えている。その他も PR についていくつか計画を立てている。PR の方法などどのような課題があるかを検討しており，今後，自公連と一緒に活動していきたい。

### 【まとめ】

#### (市長)

- ・ 恐らく東北地方では，復興を進める中で区制度を取り入れるだろう。例えば指宿校区でもいくつかの集落を合併させ，新たな区として，住宅地を作ってその周辺には，農業施設や運動施設，集落

センターを作って、電柱を地中化して、眺めのいい景観のいい場所を開拓し、地区に入るためには、町内会費を払わないと入れないとすばいい。

- ・私は鴨池のニュータウンに住んでいるが、町内会への加入率は100%だ。それは入るときに管理費を払わないと入れないから。そんな場所をモデルとしてできないかと思う。

- ・そのような形で、成功した場所はたくさんある。内之浦は津房という新しい区を作った。根本的なやり方を考えないと、問題は解決しない。コンパクトなまちづくり、新たなまちづくりが必要だ。

- ・携帯メールの発信は、まずできないだろうと考えている。なぜかという、個人情報の問題になるからだ。メールアドレスが漏れたら大変である。小学校レベルでは行っているが、それでも神経をつかう。集落規模ではもっと大変。携帯のメール配信がなくても、被害を防げるようなネットワーク作りをしないといけない。一番効果があるのは、隣の人の声かけだ。だから東北の集落作りは、私たちのまちづくりの参考になると思う。

- ・集落加入についてだが、転入してきたときの声かけが大切。区長さんからだけ言うのではなく、隣同士の人からも声かけをすること。子ども会がある、ゴミ出しをする、だから入りましょうよと隣近所の人が声をかける。それしかないと思う。集落の役員では反発する場合でも、隣同士だと受け入れてくれる場合もある。説得は隣近所がすること。

- ・100%の集落加入率を誇る場所に勉強に行けば良い。そこはまちづくりが成功している証。

- ・新たな地域を指宿校区に作るという、デザインを検討してみたらどうでしょうか。今日話をして課題が出てきたので、一つでも解決したいと思う。今日話をした問題は根本的な課題なので、すぐに解決するというのは難しい。

#### 5. 閉会のあいさつ（外城市集落長）

集落に入ってよかったなという気持ちで生活したい。今日の皆さんの熱心な協議が実を結ぶように、また実を結ばないものもあるかと思いますが、それは将来に向けて考えていければと思う。